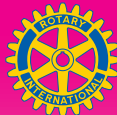




ゲイリー C.K.ホナン 2014-15年度第11会長



ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2840

TAKASAKI SYMPHONY ROTARY CLUB

Symphony Weekly



No. 25



会幹 長事 君島准逸
 クラブ会報委員長 飯島芳臣
 第4週 小野垣義男
 例会 2015年4月24日(金)
 例 会 毎週金曜日 12時30分
 事 務 所 ホワイトイン高崎
 高崎市本町144-1

光明第7ビル202号室

TEL 027-328-3371

FAX 027-328-3372

http://www.takasakisympathy-rc.org

E-mail:sym@po.wind.ne.jp

事務局員 浅見洋子

本日のプログラム ゲスト卓話

高崎市観音塚考古資料館
館長 大冢 義樹 様

ロータリーソング それでこそロータリー

第 878 回例会報告

第1週 4月3日(金)

御来訪者 0名

出席報告

会 員 数	40 名
出席計算人数	40 名
本日出席者	28 名
本日出席率	70.00%
先々週出席率	67.50%

幹事報告

・ガバナー月信

- ・会長エレクト・次年度幹事研修セミナー御礼(生方ガバナーエレクト)
- ・例会変更
- ・神戸東灘RC週報
- ・米山梅吉記念館より「春季例祭・賛助会のご案内」
- ・国際交流協会会報誌

委嘱状授与

- ・米山カウンセラー委嘱状授与
豊泉 君代君

委員会報告

- ・御誕生日祝

橋爪 健君

島崎 真澄君

- ・結婚記念日祝

三浦 敦朗君

小林 馨君

井汲 憲治君

保坂 憲夫君

長井 典夫君

高橋 栄江君

- ・出席率100%

金子 秀隆君

- ・ニコニコBOX

佐藤 昭一君(遅くなりました、2月結婚記念日でした)

泉 省平君(桜満開、佳い季節となりました)

西園 勲君(春祭りで忙しくなりました)

島崎 真澄君(御誕生日祝)

三浦 敦朗君(結婚記念日祝)

小林 馨君(")

井汲 憲治君(")

保坂 憲夫君(")

長井 典夫君(")

金子 秀隆君(出席率100%)

- ・ロータリー財団BOX

長井 典夫君 西園 勲君

浦野 幸男君 西野 宏君

- ・米山奨学会BOX

橋本 勝廣君 八木建司朗君





浦野 幸男君

理事会報告

- ・ I M実行委員会より報告の件
- ・ 新入会員松本慎悟君の承認の件
- ・ 事務局の高崎 3 R C 合同例会出席〈事後承認〉の件
- ・ 未来の夢計画〈実施年度〉の確認

次回例会予告

第2週5月9日(土)

I M (インターシティミーティング)

会場 ニューサンピア

(島野町1333 TEL 027-353-1107)

受付 15:30

I M 16:00~18:00

懇親会 18:10~19:40



「群馬の地震」 災害から学ぶ

高崎市観音塚考古資料館

館長 大冢 義樹様

「地震・雷・火事・親父」、昔は、ご承知のように世の中で特に怖いとされているものを順に並べた言葉ですが、最近は、「親父」の代わりに「女房」や「津波」などに置き換えて使われることも多いようです。その例えが、現実になってしまいました。4年前に起きた、東日本大震災です。地震の揺れによる建物倒壊での犠牲者もさることながら、地震(地盤のずれ)によって引き起こされた津波により多くの人命が失われました。2015年3月11日現在の資料ですが、死者15891人、行方不明者2584名におよんでいます。そしてその犠牲の上に、多くの教訓が残されました。東北地方の被災地にある古道の奥州街道(松前道)は、津波の到達した地点より高い位置に造られていました。また、神社のすぐ足元まで津波が到達しましたが、奇跡的に難を免れた等々の話が語られています。これは、単なる偶然ではなく、自然に向き合って暮らした賢人がいたことを物語っています。

群馬県内の状況はどうだったのでしょうか。不幸にも、屋根から落ちた瓦に当たり1名が亡くなり、41名が負傷、また建物被害は半壊一部破損17,682棟にも及んでいます。私たちの住む群馬県は全国的にみて、自然災害の少ない地域とされていますが、果たしてそうでしょうか……。

少し安全神話に水をさす話になりますが、9世紀初頭、赤城山の南面において激

烈な地震が襲った様子が「類聚国史」(菅原道真が編纂した歴史書)に載っています。その内容は「弘仁九年(818年)七月に東国で大規模な地震が発生しました。翌八月には、被害を受けた諸国へ朝使を派遣して損害の程度を調査するとともに賑給を行い、さらに詔を布告して租調免除、正税による家屋修理の補助および死者の速やかな埋葬を指示した……」であり、馬が最も早い情報伝達手段であった時代にも拘らず、迅速かつ懸命に被災地に国家として支援を行った様子が書かれています。

また近代では、「西埼玉地震」が昭和6年に発生しています。その震源地は、埼玉県深谷市付近ですが、県内でも、高崎市で震度6、前橋市で震度5を記録し、死傷者60名、建物全半壊1,935棟を数えました。関東平野の地下深くは、深さ5,000メートルほどのV型谷になっており、堆積層で埋まっています。その堆積層が沈むと、その縁に沿ってひび割れ生じ、これが時々騒ぐ、深谷断層(活断層)です。その地名由来は、字のように深い谷あい土地ですが、地名はその土地の地形や経歴、性格などを表し、自然災害とも密接に係わっています。断層、軟弱土質、崖などの素因のある土地は宅地としては不向きになります。例えば、「滝、竜など」は土石流などの危険を、「沼、谷津、和田、など」は湿地などの軟弱地盤を表しています。しかし、近年では区画整理や宅地開発等で安易に町名変更されてしまっているケースが見受けられます。身近な歴史を知り、土地の履歴を調べ、五感を働かせて自然と対話を図ることが、災害から身を守ることに繋がるのではないのでしょうか。「備えあれば憂いなし」